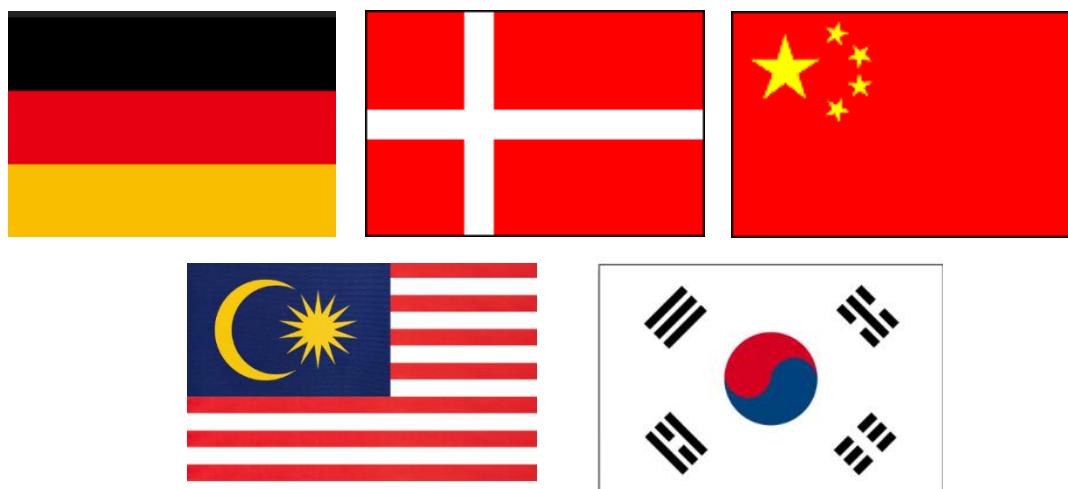


2024 年度和歌山県立日高高等学校

# 国際交流のあゆみ



日高高校 教育開発部

# 目次

<b>姉妹校交流</b>		ページ
1 デンマーク フレデリクスハウン高校来校	【10月】	1
<b>海外研修</b>		
1 韓国研修	【11月】	9
<b>その他</b>		
1 マレーシア SMK PUTERI TITIWANGSA 高校と SMK SERI TITIWANGSA 高校来校	【5月】	17
2 アジア・オセアニア高校生フォーラム 2024	【7月】	18
3 中国山東省 山東大学と山東財経大学来校	【8月】	19
4 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事来校	【10月】	20

# 姉妹校交流

## デンマーク フレデリクスハウン高校 来校

10月19日から26日の8日間、デンマークの姉妹校であるフレデリクスハウン高校から10名の生徒と2名の先生方が来校しました。フレデリクスハウン高校の来校は、今回で6度目となりました。今回来校した生徒は全員、今年3月に本校生徒がフレデリクスハウン高校を訪問した際にホストファミリーをしてくれた生徒達で、ホームステイ受入生徒も全員、前回フレデリクスハウン高校を訪問した生徒達でした。7ヶ月ぶりに再会を果たした生徒および引率教員は、喜びもひとしおでした。また、ホスト生徒以外の多くの生徒も授業やクラブ活動、生徒交流会等を通して積極的に交流し、友情を育むことができました。

### 1. 交流の経緯

1957年2月10日、日ノ岬沖を航行していたデンマークのエレン・マースク号が、炎上する日本漁船に遭遇しました。海に投げ出された日本人船員を目にしたヨハネス・クヌッセン機関長は、わが身を顧みず荒れ狂う海に飛び込み、命を落としたのです。地元の人々は彼の勇気ある行為に胸を打たれ、事故現場を見おろす日ノ岬パーク内に顕彰碑と胸像を建立し、日高町田杭地区には、大破した救命艇の保管庫を建て、その遺徳を偲んでいます。



このクヌッセン機関長の故郷フレデリクスハウン市は、ユトランド半島北部に位置する人口およそ23,000人の港町です。事故から50周年にあたる2007年8月、市のバングスボー博物館にクヌッセン機関長記念コーナーが設置され、その除幕式に和歌山県、美浜町、日高町から関係者が出席しました。その折に、「今後の交流については高校生同士の手で」というお話をいただき、在デンマーク日本国大使館の紹介を経て、日高高校とフレデリクスハウン高校との交流が始まりました。

フレデリクスハウン高校は生徒約600名、特に自然科学分野、クリーンエネルギー学、海洋学に力を入れている学校です。また、ヨーロッパ諸国に複数の提携校を持ち、国際交流にも意欲的です。



2010年11月に日高高校から初めての訪問団を派遣し、2011年にはフレデリクスハウン高校からの訪問団を受け入れました。その折、姉妹校提携を結び、以降毎年相互訪問交流を行ってきました。しかし、新型コロナの世界的感染拡大により、2019年を最後に訪問交流が途絶えてしましましたが、2024年3月に交流を再開することができました。クヌッセン機関長によりご縁をいただいた両校の友好が、今後ますます深まり発展することを期待しています。

## 2. 日程概要

	10/19(土)	10/20(日)	10/21(月)	10/22(火)	10/23(水)	10/24(木)	10/25(金)	10/26(土)
			職朝で挨拶)8: 10職員室	集合)8:20 応接室		受付前へ移動 8:30	職朝で挨拶)8: 10職員室	学校集合)9:40 記念撮影
1限			校内巡り	体育(中3)			理数 II (2-6)	ホストファミリーと お別れ
2限			美術(1-5, 6)			学校出発)8:40 クヌッセン機関長	書道(2-2,3)	学校出発)10:00
3限			論表 I (1-3)	公共(1-3)		2年普通科総合 的な探究の時間	化基(2-4)	大阪のホテルへ
4限			教養英語 (3-1, 2, 3)	音楽(1-1, 2)		フィールドワーク (各班に分かれ て)	英Com(3-6)	
昼食		終日ホストファミ リーと過ごす	昼食	昼食		昼食	昼食	
5限			文化交流 (中1, 2年)				道成寺見学 (JR/紀州鉄道利 用)	大阪・京都観光
6限			地理(1-4)		稻村の火の館と 白崎海岸見学		防災スクール (3年全クラス)	訪問団出国:10 月28日(月) 閑空発
7限	15:30 迎えバス 日高校出発 18:00 閑空着		歓迎アセンブリー					
放課後	21:00頃、バス日 高校着		クラブ体験:弓道 →箏曲(15:40- 17:00)	クラブ体験:泡の 会(16:20-17:00)	生徒交流会 (15:30-16:40) 会議室	クラブ見学 (フリー)	クラブ体験:茶道 (15:40-16:30)	
泊	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	

## 3. 訪問団、ホストファミリー構成

(1) 訪問団 : 生徒 10 名、引率教員 2 名 計 12 名

### 【デンマーク生徒】

Matilde Fick Pilgaard / Emil Schjønning Reinert Christensen / Mathilde Juhl Flygenring Mortensen

Lærke Ingeborg Thusgaard Pedersen / Anton Hessellund Madsen / Gregers Hedegaard Petersen

Anton Bjeldbak / Astrid Marie Mygind / Malthe Mejer Bak Larsen / Sara Godsk Kokholm

### 【デンマーク引率教員】

Lise Frederiksen / Signe Borup Olsen

(2) ホストファミリー : 2年 3 名、3年 7 名

2年 : 森口 園乃子 / 池田 明州哩 / 爨 千恵

3年 : 及川 真未 / 岡 佳亮 / 岡本 太一 / 柏木 洋一郎 / 玉置 みう / 中村 壮太 /  
村上 ななみ

## 【日高高校での交流】

クヌッセン機関長縁の地訪問



歓迎アセンブリー



授業交流



クラブ活動交流



生徒交流会



道成寺見学

## 【ホストファミリー感想】

### 「交換留学を行って」

3年6組 及川 真未

交換留学を通して多くのことを体験し、物事への考え方かが変わりました。自分自身、英語が得意ではなく、それでも挑戦してみたいと今回のデンマーク研修に参加しました。みんなフレンドリーで私の拙い英語を一生懸命聞いてくれ、話すことに自信がつきました。

10月にデンマーク人の生徒が日本に来てくれた時には、多くの日本文化を体験してもらいたくて、いっしょに京都へ行ったり、寿司を食べたり、温泉に入ったりしました。どんなことにも物怖じせず挑戦してくれました。始めから苦手意識を持つのではなく、一回だけでもやってみようと行動する姿に感動しました。また、デンマークの子たちに「半年前より英語が上手になってる！」と言ってもらい、本当に嬉しかったです。

始めは本当に興味本位だけで始まったデンマーク研修。本当に参加してよかったですなと思っています。他国に新しい友達ができるだけでなく、知らなかった文化を発見し、新しい考え方にお会いました。

今回の交換留学を通して、コミュニケーションの大切さや、デンマーク人の温かさを知ることができます。

また、自分自身の視野の狭さを痛感しました。これを楽しかった思い出として残しておくだけでなく、今後に活かしていくように頑張ります。挑戦せずに終わるのはもったいないので、怖がらずたくさんのこと挑戦していきたいです。

そして2年後、もっと英語スキルを上げて、ホストファミリーに会いにデンマークへ行こうと思っています。



### 「デンマーク留学生の受け入れ」

3年6組 岡 佳亮

デンマークに行った時よりも自分の英語力は伸びている予定だったが、勉強が思うように進まず、ホームステイ受け入れがとても不安だった。家族の協力などもあって、思ったよりも上手くコミュニケーションを取ることができた。

初日に大阪に行き、日本食や買い物、レジャー施設を楽しんでもらい、とてもよい思い出になった。他にも、学校生活ではホールで学食を食べたり、放課後にカラオケ、サッカー、野球などを楽しんだりした。放課後に回転寿司に





行ったり、バーベキューをしたりして、デンマークからの留学生だけでなく自分達も楽しむことができた。

今回のホームステイ受け入れを通して、自分が行った時よりもお互いの仲を深めることができ、異文化や多言語に再び触れることで語学などの勉強をもっと頑張りたいと思える、とても貴重な経験ができたと思う。もし、また機会があればホームステイを受け入れたり、再度デンマークに訪問したいと思う。

### 「国際交流を終えて」

#### 3年6組 岡本 太一

今回のデンマーク、フレデリクスハウ恩高校との姉妹校交流において、私は数多くの事を学ばせて頂きました。まず、事の始まりは2年前、コロナ禍が開けて姉妹校交流が再開されるとの話を聞いた時、以前から「自分の目で海外の人々のそのままの生活を見てみたい」という気持ちがあつたため、応募してみることにしました。面接などを行い、選考の末、メンバーに選ばれた時は、飛び跳ねるほど喜びました。そして翌年の3月、初めての海外に胸をときめかせて、デンマークへ出発しました。約17時間かけ、初めてデンマークに降り立ったとき、辺りはもう暗く、とても寒かったです。翌日、ホストファミリーと待ち合わせ、挨拶をした後、フレデリクスハウ恩の町を観光しました。程よく広く、ちょうど御坊市と同じくらいの町だと思いました。そしてそこから約1週間、ギムナジウムでの歓迎会、海軍施設や美術館の見学など、非常に様々なイベントをしました。そのようなことを通して、私がこのプログラムに参加したもう1つの理由である、「なぜデンマーク人は幸福なのか」について答えを見つけることができました。私個人の答えとして、「のんびり暮らすことができるから」というものをみつけました。というのも、デンマークは首都と地方政令都市以外にはほとんど日本で言うところの田舎町のような状態であり、ホストファミリーからは「デンマークはのんびり過ごしやすい」という話を聞きました。実際、私の体感ではほとんどの人がアウトドアに興じており、日本のような娯楽はあまり見受けられませんでした(勿論アニメ、漫画等はありましたが…). それと同時に日本と比べて労基法が整っており、毎日ホストファミリー全員で晩飯を食べたりとストレスがかかりにくい生活ができているからではと感じました(実際、学校の教員の方々は5時頃にいつも仕事が終わっているようでした)。プログラムが終わってから1年以上が経ってもハッキリ思い出せるくらい充実した貴重な体験となりました。

そして昨年の10月、今度はフレデリクスハウ恩側がこちらへやって来ました。偶然にも私が3月





に泊めてもらったホストファミリーの友人に当たり、また一緒に遊べるとワクワクしました。こちらでも約1週間、とても充実した時間を過ごすことができました。最初に全員で学食へ行った際、デンマークの男子生徒の周りに女子生徒が集まりに集まって、半分何かのイベントかというくらいに騒がしくなったのはいい思い出です(笑)。それ以外にも、大阪に遊びに出かけた時、大阪モノレールに乗った際に、「これが人生初のモノレールだ」と話してくれたことが意外でした。どうやらデンマークにはモノレールが無いいらしく(というより鉄道網があまり無い)、とてもワクワクしていたのを覚えています。そして、デンマークの生徒からの要望で、最終日には家族全員ですき焼きを食べました。人生初の和牛にとても驚いていたのを覚えています。

以上のように、今回のプログラムで私は数多くの非常に貴重な体験をすることができました。もしこの文章を読んでいる方で、海外に興味があり、プログラムに応募できる状況であるなら、絶対に応募することを薦めます。このような相互でのホームステイといった体験は、大学等でもかなり難しいので、やりたいなら今のうちに応募する方が絶対にいいです。

以上を持って私の体験談を終わります。

### 「楽しかった1週間」

3年6組 柏木 洋一郎



今回のホストファミリーとしての活動では、相手のデンマークからの生徒を楽しませるだけではなく、自分たちもすごく楽しさを感じられる一週間を送ることができました。始めは、一度会っているとはいうものの様々な面で不安がありました。蓋を開けてみれば、自分たちにとっても、いいおもてなししかつたと思います。

まず私たちは彼らを大阪に連れて行きました。僕も行ったことがない観光地だったので、彼らと楽しさを共有できました。そして、僕の家にホームステイをしたデンマークの生徒が、前々から野球をしたいと言っていたので、野球をする計画を立てたのですが、ホストファミリーの生徒だけでなく、他の多くの生徒も協力してくれて、とても助かりました。

また、皆楽しんでくれた様子を見て、僕自身も満足の行くレクリエーションができました。これらの2つの活動は男子の生徒間で行ったものですが、女子も含めてバーベキューやスポーツなどの交流も行い、全員が親睦を深められたと思います。自分たちにとっても、デンマークの方々にとっても素晴らしい経験になりました。



## 「デンマークからの使者」

3年6組 中村 壮太

デンマークからマルテ（自分が受け入れたデンマーク人の生徒）が来る時に、日本の良さを存分に伝えられるか、また、英語で日常的に会話できるかなどがとても不安でした。けれど、実際に会ってみると、思いの外緊張せずに話せたし、一緒に大阪に行った時も、めちゃくちゃ楽しむことができました。マルテが来てから約1週間で、僕がデンマークに行った時よりも仲良くなれたと思います。マルテがデンマークに帰る時に、本当にマルテを受け入れてよかったですと感じました。またいつか会えたらいいなと思います。今回のフレデリクスハウゼン高校との国際交流に参加して本当に良かったなと感じます。



## 「互いの文化に触れて」

2年2組 森口園乃子



私は3月にデンマークに訪問し、10月にはデンマークでのホストファミリーを、今回は私がホストファミリーとして受け入れました。前回、中国の姉妹校である西安中学の子を受け入れた時と違い、お互い知り合っている状況だったので、非常にやり取りが簡単で事前に準備しやすかったことを覚えています。初日は休日だったので、本宮大社に行きました。そこではみんなで縁結びの神様に会えたことに感謝しました。二人でおそろいのお守りを買ったりしました。そのあとは温泉に行ってゆで卵を作って食べたり、カフェに行ったり、プリクラを撮ったりして過ごしました。

次の日からは学校が始まり、他のデンマークの生徒やそのホストファミリーと過ごすことが多くなりました。放課後にサッカーをしたり、みんなでバーベキューをしたりしました。とても短い期間でしたが、とても充実した時間でした。

受け入れ期間中少し困ったこととして、お互い知り合いだったこともあり、はっきりと言い合うことが多い上に言語も異なるため、伝えたいことと伝わっていることがまったく異なることがありました。お互い伝わらずもどかしい思いをしたこともありました。その時はどうしてもっと英語が話せないのだろうと思いました。そのおかげでまたたくさん勉強したいと思うことができました。最終日、お別れの時にはデンマークのホストマザーがとても会いたがっているからまた遊びにおいでと言われました。私もいつでも歓迎すると言い、お互い次の再会を心待ちにしています。

この経験は私にとってとても素敵なもので、私の成長に強く関わるものでした。これからもたくさんの国際交流をしたいと思うし、積極的に参加したいと思うきっかけにもなりました。



## 「いっしょに見た和歌山城」

2年5組 池田 明州哩

10月某日の土曜日にデンマークの生徒が日本に到着しました。そして、次の日に主に和歌山城を見学しました。天守閣まで登り、エミルは日本の文化を堪能しているように思われました。

また、和歌山市役所の14階に入っているレストランにも行きました。さまざまな食べ物がありました。和歌山城が目の前に見えて美しかつたです。



## 「ホームステイを受け入れてみて」

2年5組 聶 千恵



初めてホームステイを受け入れてみて、最初はとても不安でした。色々な文化の違いがあるので全体的にはとてもしんどかったです。でも、一緒に過ごせた時間は最高の思い出となりました。いろいろ企画したものの、楽しんでもらえるかはとても不安だったけど、楽しんでもらえてよかったです。バレーをしたり、サッカーをしたり、バーベキューをしたりしました。今回私が感じた一番の違いはお弁当です。ご飯とおかずを作って持っていたら喜んでもらえず、サンドイッチで作って欲しい、中にはきゅうりと鶏肉とキャベツ以外は何もいらないと言われました。お弁当で米を食べる習慣がないことがわかりました。今回の反省点は、あまりうまくコミュニケーションを取れることができなくホームステイが終わってしまったので、もし次に機会があれば、今回の経験を活かしたいです。



# 海外研修

## 韓国研修

11月3日～9日の日程で「2024年度韓・日高校生交流訪韓研修」が行われ、本校から生徒14名と引率教員1名が参加しました。この訪韓プログラムは公益財団法人日韓文化交流基金の高校生訪韓事業で、今年は第一団として和歌山県から50名、第二団として長野県から50名が同日程で派遣されました。現地学校における交流をはじめ充実した数々のプログラムを体験し、韓国の文化、経済、歴史など様々な角度から今の韓国を肌で感じながら学ぶことができました。また、現地で育まれた友情は、帰国後もSNS等を利用して継続しています。

### 1. 趣旨

本派遣事業は、現在の日韓関係改善の機運を維持・強化する観点から、両国の未来を担う青少年交流および相互理解の重要性に鑑み実施するものです。訪韓プログラムの様々な交流において日本の文化や社会・魅力等を積極的に伝えると共に、韓国の文化や社会に触れることで同国への理解も深め、日韓の高校生同士の相互理解を促進することを目的とします。また交流の成果をより広く拡散し高い波及効果を期待するためにも、SNS等による強い発信力を持つ高校生を対象に実施します。

### 2. 日時

2024年（令和6年）11月3日（日）～11月9日（土）（現地6泊）

### 3. 研修先

大韓民国（ソウル市およびその近郊）

### 4. 主なプログラム

高校生訪韓団（第1団）研修概要		
	日付	内容
	10月19日（土）	オンラインにて事前説明会
	～出発まで	事前準備と高校交流でのプレゼンテーション・パフォーマンス練習
1日目	11月3日（日）	関西国際空港 14：00 発→仁川国際空港 15：55 着 研修中の宿泊施設 国立国際教育院アリランハウスへ
2日目	11月4日（月）	在韓国日本大使館公報文化院長 川瀬和広氏による講義 韓国国立国際教育院主催歓迎式・昼食会 ワールドK-POPセンターにてK-POPダンス体験 大韓民国歴史博物館見学 明洞フィールドワーク
3日目	11月5日（火）	突馬高校訪問交流（歓迎会・授業交流・文化交流・給食昼食・グループフィールドワーク）

4日目	11月6日(水)	現代モータースタジオ高陽、景福宮見学
5日目	11月7日(木)	ソウル市庁（旧庁舎・新庁舎内部ツアー）、光化門広場（世宗大王銅像）見学 東国大学訪問（日本語学科ソン・ジョンヒョン教授による講義・生徒交流・校内ツアー）
6日目	11月8日(金)	韓国民俗村見学（韓服体験・韓服クッキー作り） ハングル・カリグラフィー講座 成果報告会
7日目	11月9日(土)	仁川国際空港 11:05 発→関西国際空港 12:50 着 14:00 解散

## 5. 研修団

参加生徒：1年生5名 2年生9名 計14名 引率教員：1名

成瀬 あず / 児島 舞 / 庄司 玲李 / 杉本 姫寿奈 / 寺井 夕稀 / 関 紗菜 / 谷 妃愛菜  
前田 明南 / 山口 実来 / 北岡 真子 / 爛 千恵 / 源地 真紘 / 祭本 知里 / 藤田 くるみ  
引率教員：菊地 貴子

### 【参加生徒による感想】

#### 2年3組 関 紗菜

今回のプログラムで私が成長を感じたことは、物事を多面的に見ることです。以前よりもチャレンジを大切にできるようになったと思います。

反省点は、韓国について偏見を持っていたことです。歴史的な問題もあり、反日のイメージがありましたが、現地の人たちはとても優しく接してくれたので、イメージが変わりました。また、日本の漫画や音楽をよく知っている様子でした。実際に訪れてみると分からぬものだと感じました。



#### 2年3組 谷 妃愛菜

学校訪問によって英語の大切さやお互いの文化の違いを知ることができたのが、一番プラスになった。このプログラムを通して、始めは自分を抑えて遠慮したりすることがあったりしたけど、いろいろな人と関わって、いろいろな場面で発表などがあって、人と関わりが増えて自分を出すことができるようになった。学校訪問で言語や文化の違いがあっても仲良くなれることがわかったいい経験になった。

もっと英語と韓国語を勉強して、海外の人と会話を広げられるようにすれば良かった。学校訪問を通して、日本の学校と韓国の学校の雰囲気や生徒の人柄などはあまり変わらないなと感



じた。韓国の学生の放課後と一緒に過ごして、日本の学生の放課後の様子と全然変わらないと思った。授業形態も変わらなかった。韓国と日本はそんなに違いがなく、過ごしやすい。

## 2年4組 前田 明南



私が一番成長を感じたことは、自分から積極的に行動するようになったことです。前までは恥ずかしさや自信のなさから行動に移すことができなかつたけど、韓国に行ってバディや韓國の方々と触れ合ってから自分から行動することが多くなりました。

反省点は、もっと韓国語を勉強して行けばよかったです。簡単な単語は分かっても、お店で使う用語はその場で調べたり教えてもらったりしてできました。自分の力ができるようにしておきたかったと思いました。しかし、現地の方々はとても優しく、片言の韓国語でも真剣に聞いてくれる方が多かったです。

## 2年4組 山口 実来

以前に比べ、コミュニケーション能力が上がったと感じました。今回は、和歌山県のほかの学校の方や長野県の方、そして、韓国で出会った高校生と大学生の方とお話しする機会がありました。最初は、初めてあつた人と話すのが怖く、なかなか話しかけることができませんでしたが、いざ話してみると相手の方も優しく接してくれ、話すのがとても楽しく感じました。それをきっかけに、韓国の方とはできるだけ自分から話しかけるようにし、英語や翻訳機能を使いながら積極的に会話をするようになりました。

会話をしたおかげで、韓国の方と楽しい時間を過ごせ、韓国での生活を学ぶことができました。

反省点は、韓国、韓国語についてもう少し勉強すべきだったところです。韓国で買い物をするとき、他の学校の子がスムーズに韓国語を話せていてとても驚きました。そこで私は、翻訳機能を使うより、言葉で物事を伝える方が、コミュニケーションがとりやすいということに、改めて気づくことができました。また、韓国で人気の日本のアニメや歌手など、たくさん学ぶことができました。

今回が私にとって初めての海外でしたが、とてもいい経験となりました。他の国にも行ってみたいという気持ちになりました。そして、他の国の方とお話しすることは、相手の国について知ることができるとともに、交流を深めることができますだと感じました。



## 2年5組 北岡 真子

自分は人と話すのが苦手なので、韓国の高校生と話すとわかつたとき、とても緊張しましたが、互いに歩み寄ることで、言葉が通じなくても仲良くなれることがわかりました。この経験から、言葉が通じなくても仲良くなれるのだから、同じ言葉を使う相手ならもっと簡単に仲良くなれると考えることができるようになりました。

また、韓国の高校での大学生との会話で自分の勉強不足を実感しました。韓国の高校生の皆さんは英語も少し日本語も話せるのに対して、私はつたない英語しか話せず、コミュニケーションを取りづらい部分があり、相手に申し訳ない気持ちになりました。この気持ちを大切に、これからはもっと勉強に励みたいと思います。初めての海外で、戸惑うこともたくさんありましたが、多くのことを学ぶことができたと思います。

反省点としてはやっぱり自分の勉強不足です。韓国の方は皆さん優しく話しかけてくれたのですが、私が英語しか話せなかっせいで、貴重な会話の時間をさらに短くしてしまいました。日本の交流団の中には韓国語を話せる人もいたそうで、自分の甘さを実感しました。また、文化の違いを忘れてしまい、食事の際に皿をもちあげてしまうことがあり、失礼なことをしてしまったなど反省しています。

成果は、たくさんのつながりができたことです。韓国の高校生、大学生はもちろん第二団である長野県の高校生とも友達になれました。自分とは違うさまざまな環境の方とたくさんお話しできて、自分が生きてきた世界の狭さを思い知りました。この経験、繋がりを将来に生かしていきたいと思います。



## 2年5組 翁 千恵



私は、このプログラムに参加するまでは、人とコミュニケーションをとることが苦手で不安でしたが、本プログラムを通して韓国の方たちと積極的にコミュニケーションをとることができました。苦手を克服するため、また日本と韓国の違いについて知るために、本プログラムに応募したので、目標を達成できて良かったです。また、韓国の文化や歴史も知ることができました。

反省点として、韓国語をもっともっと学んでから行けばよかったと思いました。韓国の方々には日本語が思ったより通じていたので、ある程度の日本語と英語でコミュニケーションをとることができたのですが、スムーズにはコミュニケーションができていなかったので、もし次の機会があれば韓国語をマスターして、スムーズにコミュニケーションをとりたいです。

成果として、韓国についてのいろいろな文化や歴史について体験し、知ることができました。1週間でチマチョゴリを着たり、ハングルでの書道を経験したり、景福宮、歴史博物館、ソウル支庁、高校訪問、明洞、現代モーターパークなどを訪れることができ、最高の体験になりました。本プログラムを通して、将来日韓の懸け橋になれたらと思いました。



## 2年6組 源地 真紘

私は日本と韓国は同じアジアにあるので似ていると思っていたましたが、今回の訪韓プログラムを通じて実際に行ってみると、思ったより違いました。例えば、韓国の学校では給食が無料であること、食事を残すのに抵抗がないこと、学歴社会なので運動系の大学に行かない人は部活に入っていないこと、街中で夜10時以降に未成年者が外を歩いていても補導されない、運転が少し荒いなど、日本より細かくないと感じました。驚いたことは日本語を話せる人が多かったことです。韓国の飲食店、衣料店の店員は日本語が話せて、学校でも日本語の授業があるので日本語で話していて、外国にいる実感がありませんでした。



反省点はもう少し韓国語や英語で話したかったことです。韓国で日本語が話せる人が多く、つい日本語で話してしまって、あまり韓国語や英語を話す機会がありませんでした。このことから私は少しでも韓国語を話せるように勉強しようと思いました。残念だったことは、韓国の学校の様子をSNSにあげることができなかったことです。今回の成果は韓国の学校の子とSNSで繋がってたまに話しているので、私が疑問に思った韓国のことを見たり、日本のことを使ったりできることです。

## 2年6組 祭本 知里



私は韓国を訪問するまで英語を上手く話せるか不安でしたが、実際に現地のお店や学校で出会った学生さんたちと英語で話してみて、私の英語が伝わったので、自信を持って話ができました。言語が違っていても、お互いに話そうとする意識と聞こうとする意識を持つことが大事だと気付きました。いろいろな機会で話をすることができ、韓国の学生はもちろん、日本の学生とも友達になりました。また、日本語を話せる人が思ったよりも多かったことが一番の驚きです。日本は島国なのであまり海外からは関心を持ってもらっていないと思っていましたが、韓国の学校で日本語という教科があるということを知ってうれしかったです。韓国に親近感を感じました。このように、私は本プロジェクトで大きく視野を広げることができました。これからもこの繋がりを大切にしていきたいです。今回、実際に韓国を訪れてよかったです。

私は本プロジェクトを終えて、韓国に行く前に韓国語を少しでも使えるようになっておくべきだったと思いました。なぜなら海外の学生さんたちが日本に来てくれた時に、日本語を使ってくれてうれしかったからです。韓国の学生さんたちも、日本から来た私たちが簡単な韓国語でも話すことができたらうれしかったと思います。そして、韓国の学生さんたちが日本語を使って話をしてくれていたので、私も韓国を使って話がしたかったです。また、自分からもっと多くの人に話しかけていれば、多くの出会いがあったかもしれない、恥ずかしがって自分から声をかけられなかつたことも後悔していま

す。せっかく友達になれたのに、あまり写真を撮っていなかったことに帰国後気づき、後悔しています。私は地域の活動に参加していて多くの人と出会うので、自分から話しかけてもっと私のことを知つてもらいたいです。また、その人に親近感を持つてもらえるように、たくさんの知識を持ちたいと思いました。

## 2年6組 藤田 くるみ



私はこのプログラムに参加して、他国の人とコミュニケーションをとることに慣れることができたと思います。韓国の歴史についても学ぶことができ、より日韓関係について興味を持つことができました。また、海外に行ったことがなかったので、初めて海外に行き、とてもいい経験になりました。自分たちで考えて行動するいい機会にもなりました。

韓国の高校に行き、友達を作ることができました。多くのつながりを持つことができたので、このつながりを今後も大切にしていきたいです。韓国語

を全然勉強していなかったので、もっと勉強してから行けばよかったと思います。韓国語についてもさらに興味を持ったので、これから勉強したいと思います。韓国は日本と変わらないところもあるけど、少し違うところもあるので、文化の違いなどに気をつけたいと思いました。韓国いいところを日本のいろんな人に伝えたいと思いました。

## 1年6組 児島 舞

成果報告会があり、大人数の前で発表するのはとても緊張しました。発表するにあたって、これまでの研修で学んだことについて、話したいことを短時間でまとめる作業はとても大変でした。みんなで協力して取り組むと、不可能に思えていた模造紙にまとめる作業も時間以内に終えることができ、とても良い発表ができました。韓国の学生の中には日本語を話せる人が多くて驚きました。日本語を話せない人は英語でコミュニケーション取りましたが、その英語の言語力に圧倒されました。私もさらに勉強し、次会えるときには張り合えるくらいに英語力を身につけておこうと思います。

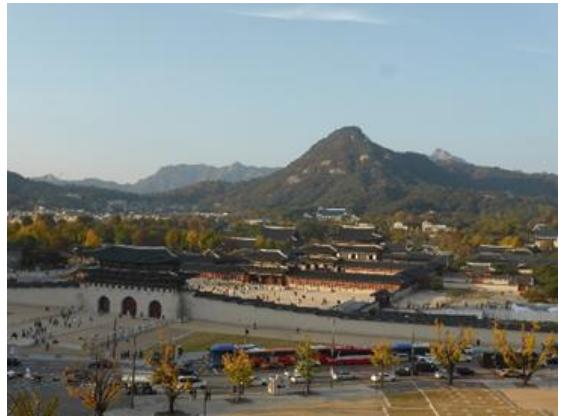
今回の研修で、勉強での努力の差を初めて思い知りました。韓国人はとても勉強しているのだと韓国人の友達が言っていました。韓国人の友だちと同じ年齢になる来年、その子のように今よりもっと勉学に励み、少しでも近づいてみたいと思いました。

1週間の研修で韓国の文化について知ったことや驚いたことがたくさんありましたが、その違いを十分に理解し、楽しむことができたと思います。また、高校の歓迎式で和歌山県について人前に立って英語でプレゼンを行ったこともあり、前に一步踏み出せるようになったと思います。



現地の高校の授業を実際に受けてみて感じたことは、授業をうける姿勢が日本と違うなと思いました。韓国の学生は、授業中に進んで発言し、わからないことはその場で先生に質問していました。授業を受けることに対して受け身で聞いていたりではなく、自ら積極的に学ぼうとしているように感じました。お昼の給食の時間に、私が食べる前に手を合わせて「いただきます」と言ったことが、韓国人の友達は不思議だと言っていました。「いただきます」をする意味を聞かれたので、食べ物に感謝するという意味だと教えてあげると、驚き、リスペクトしたいと言っていました。韓国語にも「いただきます」という意味の「チャルモッケスムニダ」という言葉があるので、日本と同じような文化があると思っていましたが、友達の反応をみると日本と違うのだなと文化の違いを感じました。

今回の研修を生かし、お互いを知り、お互いの国の違いを受け入れ尊重することで、今後の日韓関係をさらに深めることができると思います。



### 1年6組 庄司 玲李

男子が少なかった分、自分から積極的に話しかけ、コミュニケーションをとるようにした。また、グループ内の活動でもわからないことは自分から聞き、積極的に活動に参加した。そして、報告連絡相談を意識して7日間を過ごした。苦手である、名前や顔を覚えることに対して、自分なりに覚えられるように試行錯誤した。日高高校からは唯一の男子生徒となつたが、日高高校内でもしっかりとコミュニケーションを取り、縦と横の関係を深められたと思う。今回のプロジェクトに携わってくれた方々への感謝の気持ちを忘れず、挨拶などの生活態度面で緊張感を持って取り組めたと思う。

今回のプロジェクトで韓国と日本の文化の違いや韓国の高校生、大学生の日常を知ることができた。また、少し不安のあった韓国人との英語での会話も、綺麗な文法でなくても、相手に伝わるということを知ることができた。韓国といえば、反日と考えてしまうこともあるが、僕が接してきた韓国人の方々はそんな素振りは一切なく、気さくに接してくれ、我々日本人に深い興味を示してくれているということがわかった。自分から人に話しかけるのが苦手だったが、その環境故に話しかけざるを得なかつたため、いろいろな人とコミュニケーションをとるように心がけると、仲のいい友達もできた。

### 1年6組 杉本 姫寿奈

今回の訪韓プログラムでの自分の成長として感じたことは、成果発表会で発表できることだ。前日から話す内容を考え、当日は模造紙に学んだことをまとめている作業をみんなで協力して取り組んだからこそ、短い時間内に終えることができ、とても良かったと思う。また、中学三年間で身に付けた発表力を生かし、緊張することなく、成果報告をすることができた。できるだけわかりやすく簡潔に文章を

まとめることがとても難しかったが、友達に文章を確認してもらい、本番では堂々と発表することができた。

自分にとってプラスになったと感じたことは、韓国人の方や他の日本人の方ともたくさんの人と話せたことがとてもよかったです。日本語では通じない場所なので、頑張って英語で話したりした。しかし、自分の英語力があまり身についていなかったため、次に行く機会があれば、英語力のレベルを上げ、韓国語も学んで現地の人と話せるレベルまで頑張りたいと思った。

1週間の研修を経て、韓国と日本の文化との違いに驚いた。食事の時にお皿を持ち上げない習慣や給食を残すという文化には少し抵抗があったが、それが普通だとわかってとても良かった。だんだんと慣れていくうちに、韓国での生活を楽しむことができて、とても嬉しかった。日本との違いを理解し、互いに文化の交流ができたことがとても良かった。

私は今回の研修で通訳さんがいたからこそ楽しめ、たくさんのことを学ぶことができたが、実際はそううまく行かないものだと思った。英語や韓国語の能力があまりないため、自分の力だけでは全くわからなかったと思う。だからこそ、次の機会があれば、もっとレベルを上げるべきだ。自分自身で理解することが大切だと思ったので、これからもっと英語を頑張りたいと思った。今回は自分にとってとてもよい機会になった。これから先もっともっと日韓の関係が深まるることを願う。



### 1年6組 寺井 夕稀

今回の訪韓プログラムを通して、たくさんの人と関わることの大切さを知りました。コミュニケーション力や会話能力についても考えさせられる機会となりました。韓国の学校で高校生と交流できたのが一番印象的でした。ままならない韓国語で会話してみたり、翻訳機を使って会話したりすることができました。コミュニケーション力が上がったと感じることができたので、よかったです。

反省点は翻訳機を使っての会話です。翻訳機は伝えたいことが伝えられない時があると知り、そこが課題だと感じました。少しでも韓国語が話せるので、勇気を出して話してみて、もっとジェスチャーを使ったりして表現したいと思いました。これから今回の活動を活かしていきたいと思います。

### 1年3組 成瀬 あず

韓国の文化やマナーは日本とは違うものもあってはじめは少し戸惑ったが、国には国によって違うルールがあるので、それぞれの国に合わせる必要があると知った。今までに関わったことのない人や関わるはずのなかった人と今回のプログラムに参加することによって交流を持つことができてうれしかった。

私の今回のプロジェクトの反省はもっと韓国語を勉強すればよかったと感じた。韓国人と言葉が通じなかっただけでなく、韓国の学生が日本語を勉強してくれていてとてもうれしかったからだ。そして私が知っているわずかな単語を話すと、とても喜んでくれたことがすごく印象に残っているからである。



## その他

マレーシア SMK PUTERI TITIWANGSA 高校と

SMK SERI TITIWANGSA 高校来校

5月27日、マレーシアのSMK PUTERI TITIWANGSA、SMK SERI TITIWANGSAの2校が来校し、学校交流を行いました。体育館で行われた歓迎アセンブリーでは、本校からは箏曲部が演奏を披露し、マレーシア訪問団からは伝統的な踊りや学校紹介の動画を披露していただきました。迫力のある演技に多くの生徒が引き込まれていました。その後、音楽・美術・書道の3クラスに分かれて授業交流、放課後には、弓道部、ソフトテニス部、英語部、「泡の会」にてクラブ活動交流を行いました。

### 【マレーシアの高校との交流の記録】



歓迎アセンブリー

授業交流



クラブ活動交流

記念撮影

## アジア・オセアニア高校生フォーラム 2024

このフォーラムは、国際社会に活躍できる人材の育成とアジア・オセアニア諸国の友好親善を目的に2015年から実施され、今回で10回目の開催となりました。これまでも日高高校は毎回参加しており、今回は2年生1名が、発表者として参加し活躍しました。

### 1. 趣旨

本県の高校生が、アジア・オセアニアの国・地域の高校生とともに、世界共通の諸課題や観光・文化等について意見交換し、グローバルな視野で物事を捉える力を養う。また、自らの考えを相手に伝える機会を通して、国際社会で活躍できるリーダーの育成を図る。

さらに、本県の高校生が、和歌山の文化遺産等に触れ、他国等の高校生と相互理解を深めるとともに、郷土への愛着と誇りを育む機会とする。

### 2. 日時

2024年（令和6年）7月29日（月）－7月31日（水）

### 3. 県内外（高校）からの発表参加者

インド／インドネシア／オーストラリア／ニュージーランド／韓国／台湾／香港／タイ／ベトナム／マレーシア／シンガポール／トルコ／中国／ミャンマー  
大阪（千里）／静岡（吉原）／愛知（大成）／  
向陽・串本・橋本・那賀・田辺・桐蔭・智辯・星林・信愛・日高

### 4. 主なプログラム

7月29日：開会式・参加各国紹介  
7月30日：分科会・県知事主催レセプション  
7月31日：全体会・稻むらの火の館研修ツアーエ  
\*その他、分科会、全体会の打合せ、交流会等

### 5. 参加生徒 [担当]

2年5組：1名

西端 一蕗芭〔“ダイバーシティ問題”発表者〕



## 【参加生徒による感想】

アジア・オセアニア高校生フォーラムで学んだこと

2年5組 西端 一露芭

自分の成長を感じたのは、自分の意見を英語で言えるようになったことです。英検の面接などでは言いやすい方法で答えていたけど、このフォーラムではテンプレートではなく、自分の意見を言わないと話し合いには参加しにくかったです。

また、伝えようと努力することの大切さを学びました。英語で伝えにくいことでも、身振り手振りで頑張って伝えようとしたら、他の参加者は聞こうとしたり、理解しようとしたりしてくれました。

反省点は英語で話すスキルがなくて、スムーズに話せなかったり、知らない単語が会話の中に出てきて、上手にコミュニケーションがとれなかったりしたことです。日本から参加していた周りの生徒は皆、英語のレベルが高かったです。英語で話すのに不安を感じたとき、日本人の参加者がゆっくり話してくれて、安心させてくれたこともあります。



## 中国山東省 山東大学と山東財経大学来校

8月28日、山東大学と山東財経大学の学生が来校しました。今夏の猛暑に配慮し、歓迎式典は本校会議室で開催し、各教室とオンラインで繋ぎました。日高高校は箏曲部による歓迎演奏を行い、山東省の学生は、猫の恩返しの主題歌「風になる」の日本語での独唱や、書道パフォーマンスの披露でセレモニーを盛り上げてくれました。その後、一団は本校の音楽、美術と英語の授業に参加しました。音楽の授業では一緒に「涙そうそう」を合唱し、美術の授業では互いの似顔絵を描きました。英語の授業では、折り紙を折りながらコミュニケーションをとりました。昼休みには本校の国際交流委員生徒たちと昼食をとり、親交を深めました。短い時間でしたが、互いの文化を学び合う貴重な機会となりました。



## 【参加生徒による感想】

### 3年4組 阪本 美沙

中国山東省の大学生との交流を通して、お互いの異なる文化や価値観、考えに対する理解と認識を深め、地域や特性を生かした幅広い交流を行うことができたと思います。言語の壁を越えて、お互いの考えを理解、尊重しながら、これからもより交流を深めていきたいです。

また、訪問された大学生の方が、日本語で挨拶をされていました、日本の曲を歌っていたりするのを聞くと、すごく親近感が湧き、嬉しく思いました。私自身も挨拶の一部を中国語で行い、ほんの少しですが、中国語を知ることができました。

## 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事来校

10月31日、ドイツ大使館から大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事メラニー・ザクシンガー氏にお越し頂きました。今回のプログラムは、高校生が欧州連合（EU）とその加盟国の大使から直接お話をう伺い、EUをより身近に知ることを目的としています。講演会ではEUの歴史や仕組みを説明していただき、例えば、EU旗の12個の星については「12という数字が伝統的に完璧・完全・統合を意味する」ということをクイズ形式で紹介して下さいました。世界には人口問題やエネルギー問題など解決しなければならない様々な課題があり、日本とEUは協力して取り組んでいかなければならぬと説明を受けました。講演会の後は座談会が開催され、希望する日高高校生と附属中学生が参加し、EUに関するだけでなくドイツの文化や風習、海外留学などを話題に大いに盛り上がり、和気藹々とした座談会となりました。

## 【生徒による感想】

### 1年1組 福本 美咲



今回の講演を通じてEUについて詳しく知ることができました。例えば、EUの国旗の由来、EUの長い歴史、ユーロ、EUのグローバル戦略などを知りました。他にもEUは広島サミットで世界のパートナーと密接に連携して、国連のような取り組みをしていることも初めて知りました。EUは色々な国と協力することを大切にしていて国内だけではなく、世界の平和のために防衛、経済、安全保障、貿易など、様々なことに取り組んでいることに感心しました。

EUで使われているユーロのデザインは工夫がされていて、フランスやデンマークなどヨーロッパの国々のデザインが施されていることも知って、EUが協力しあっている姿が感じられました。EUはウクライナを支援している日本に対し感謝してくれていて、仲間思いだと感じました。

## 1年4組 前井 寿理

EU というものの存在は社会の授業などで学び知っていたが、詳しくは知らなかつたのでとてもよい機会になった。EU の果たす大きな世界的役割など様々なことが学べた。日本と EU の関係は深いものではないと思っていたけれど、貿易などの面でとても深い関係を築いていると知り驚いた。多様なヨーロッパの国々を団結させることを目標にしているのは素晴らしいと感じ、ヨーロッパ以外の地域でも、EU のような組織を作っていくべきだと思った。ドイツ総領事のメラニーさんから実際の話を聞くことにより、EU に興味を持つことができた。EU の大きな力と大切さを感じることができ、協力姿勢を持つことが日本にとって大事だと思った。



## 【編集後記】

2024 年度の国際交流で印象的だったのは、デンマーク姉妹校フレデリクスハウ恩高校訪問団の来校です。新型コロナの世界的感染拡大以降、訪問交流が途絶えていましたが、2024 年 3 月のデンマーク姉妹校フレデリクスハウ恩高校への訪問で再開することができました。そのわずか 7 か月後に姉妹校が来校し、再会を果たしました。訪問時にホームステイを受け入れてくれた生徒が、ホームステイをした本校生徒の家庭に滞在することになり、友好関係がより深まったように思います。

また、2024 年度は訪韓プログラムで和歌山県団の派遣が決定し、県から派遣された 50 名のうち、本校から 14 名もの多くの生徒を派遣することができたのは、本当に幸運でした。派遣された生徒の満足度は非常に高く、生徒の感想からもうかがうことができます。

残念に思うのは、「アジア・オセアニア高校生フォーラム」が 10 回目の開催を持って終了したことです。日高高校は 2015 年から毎回参加しており、海外の高校生と世界的な課題について英語で議論を交わすことができる貴重な機会でした。今後もこのようなプログラムがあれば、継続して参加したいと思います。

オンライン交流にも利点はありますが、国際交流においては、同じ空間で対面して対話することの価値を感じます。中国姉妹校西安中学校とも、笑顔を交わしながら、対面で交流できる日が迎えられることを願っています。

日高高校 教育開発部